

権現山・山行報告

(山 域) 上野原近郊
(コ ー ス) 権現山(北尾根)～雨降山
(登山方法) やぶ山ハイキング
(山 行 日) 平成 30 年 2 月 7 日(水)
(天 候) 晴れ
(参 加 者) CL 鈴木 憲二 澤田 路子 鈴木 愛子 篠塚 勇(記録)
(山行タイム) 初戸 8:30⇒腰掛 9:20⇒北尾根⇒13:10 権現山 13:30⇒雨降山 14:10⇒
玄房尾根⇒15:40 初戸

(山行報告)

山行日の 1 週間程前に鈴木(憲)さんからお誘いがあり、雪山は初心者なので少し心配であったが、興味もあり参加をお願いした。

積雪も思いの外深く、軽アイゼンも 4 本爪で、急登では悪戦苦闘することになった。

山行報告は、私目線で書かせて頂きました。

鈴木車で千葉駅(IS)と津田沼駅(MS)でピックアップして頂き、一路中央道を西へ、上野原 IC で降り初戸集落に 8 時過ぎ到着し、道路脇の空地を見つけ駐車する。

今回の登りコースは昭文社の山地図「高尾・陣馬」にもコース記載がなく、一つの案内板も無いやぶ山の北尾根コースだ。

8 時 30 分出発。晴天に恵まれ、舗装された狭い市道を歩くこと 50 分、山あいにはっそり 3～4 軒が建つ腰掛集落に到着だ。

CL が GPS で登り口を探す。カーブミラー手前の人道を下り人家の軒先を通り、鶴川と支流の 2 本の橋を渡り、いよいよ登山開始だ。

登り口付近で 10cm 程の積雪があるので、スパッツと軽アイゼンを装着する。

私は、20 年以上前に購入した軽アイゼンで、残雪の山を 1～2 度しか使用したことがなく、自己流でヒモを固定していたので、30 分もしないでヒモが緩んできてしまった。教えて頂いた通り結び直したら、下山まで緩むことはなかった。

私を除くメンバーの方は、雪山の経験は豊富で澤田さんと CL もリハビリと言いながらしっかり登り

付いて行く。私も緩斜面のうちは、遅れ気味ながらも付いて行けたが、1 時間位過ぎた辺りから傾斜がきつくなり付いていけない。

積雪も徐々に増してきて深い所では 30～40cm 程あり、更に雪の下は落葉のジュータンだ。急斜面は 4 本爪の軽アイゼンでは蹴る靴前方に爪がなく、滑ってしまい登れない。どうしたら登りやすくなれるか試行錯誤しながら登る。結果、靴爪先で 4～5 回蹴り雪と落葉を取除きアイゼン爪を地面にシッカリ食込ませて一步一步登る方法しかなく、体力を消耗する。

途中から風が強くなり、木立の中、陽が射さず体温を奪い痺れるほどの寒さだ。

鈴木(憲)さんは下調査も十分されてこられ、時々 GPS で方向を見定めて、適格に導いて頂いた。

緩斜面と急斜面を 2～3 度繰返し、皆さんが心配し立止まり振返り中、自分が頑張るしかなく、一步一步黙々と登り続ける。太腿も攣りそうだ。

特に、頂上直下の急坂は小木から小木へ掴まりながら、何とか登り切ることができた。

13 時 10 分権現山(1,312m)頂上に到着だ。私が大分足を引っ張り、予定時刻を大幅に遅れてしまった。

強風も止み、日当たりよい南西方向の展望が開け山頂で富士山が出迎えてくれた。腹ごしらえをし、早々に稜線を雨降山に向かった。そこからは、玄房尾根を初戸に下山開始だ。

登りでは獣の足跡しかなかったが、下山路には雪の中に薄っすらと靴の足跡がある。

こちらの尾根の登山道は、北尾根に比べて総じて傾斜が緩やかだ。

私は、下りも心配であったが、傾斜のきつい下り坂もあったが滑ることもなく、遅れながらも何とか皆さんに付いて行くことができた。

14 時 10 分に電波塔の建つ雨降山を通過し、つづら折れの雪道をひたすら下り、途中集落に近づいた証のテレビ共同アンテナを通過、15 時 40 分初戸に下山した。

帰りは、大きな渋滞もなく 17 時 30 分に帰葉した。

経験と装備の不足で皆さんに大変ご迷惑をお掛けしたが、貴重な山行をさせて頂きました。ありがとうございました。

写真を撮る余裕もなく、大した写真も撮れませんでした。

以上



初戸を笑顔で出発



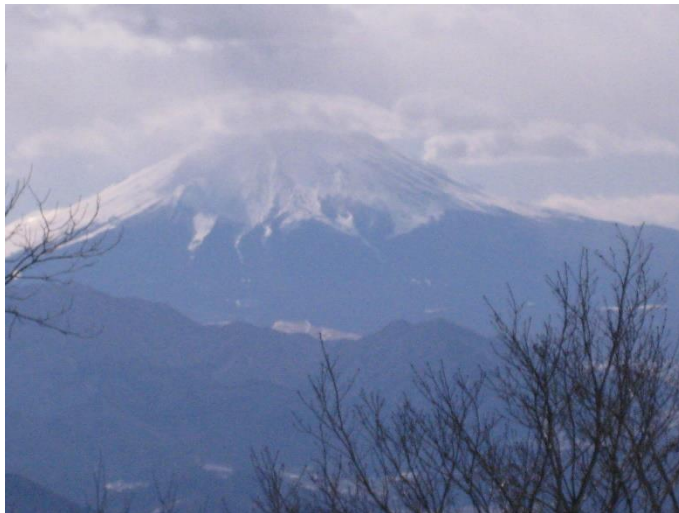
腰掛の 2 本目の橋を渡り登山開始



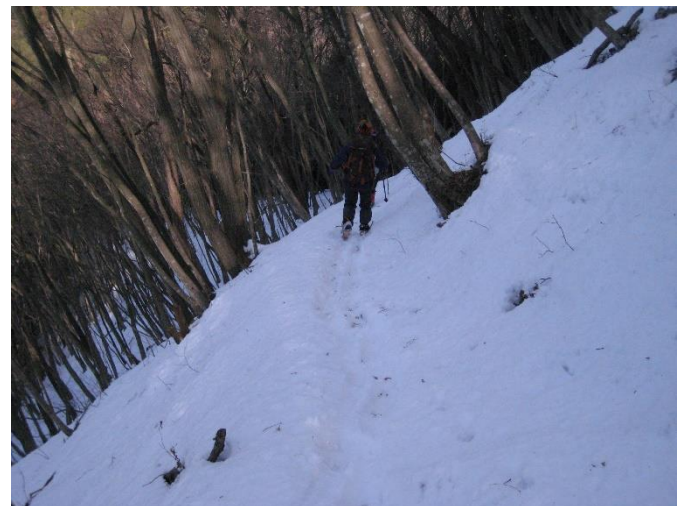
権現山山頂



権現山山頂



山頂より富士山を望む



つづら折れの下山路



初戸集落の共同アンテナ



帰路の準備

